

「考動力」で国際社会に貢献

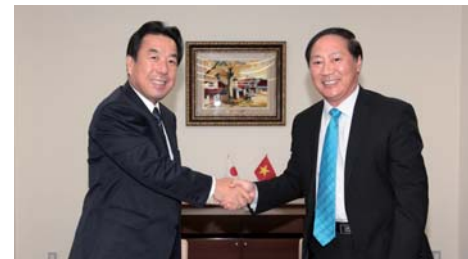


若者は世界の重要な問題を解決するために学ぶ

●レー ドック リュウ ・ベトナム社会主義共和国総領事館 総領事

●楠見 晴重 ・学長

ベトナムは近年、戦争の痛手から立ち直って活気にあふれている。ベトナム社会主義共和国総領事館のレー・ドック・リュウ総領事と楠見晴重学長との対話は、科学技術、歴史、国際交流をめぐって展開された。関西大学が標榜する「考動力」は、世界の若者に向けて発信すべき強力なメッセージとなるのだ。



Tops Interview



◆ベトナムの3大学と学術交流協定を締結

楠見 関西大学は現在、ベトナムの3つの大学と学術交流協定を結んでいます。まだ交流の歴史は浅いのですが、2005年にベトナム国家大学ハノイと、2009年に貿易大学およびハノイ工科大学と学術交流協定を締結しました。

レー・ドック・リュウ総領事は、ハノイ工科大学との協定締結に先立って、同大学の副学長と一緒に関西大学に来られたことがありますね。私が環境都市工学部長の時でした。

レー ハノイ工科大学は、ベトナムの自然科学系の大学では最も有名です。自然科学分野の優秀な人材の多くはこの大学の出身者で、ベトナムの発展のために重要な役割を果たしています。

楠見 ベトナムは活気にあふれた国で、向学心に燃える若い人が多く、みんな非常によく勉強します。ベトナムの大学とは、これからもっと密な交流をしていきたいと考えております。

レー 最近、ベトナムはITの分野が強くなり、日本やアメリカなど海外のソフトウェア開発の現場でもベトナム人技術者が活躍しています。海外在住のベトナム人の数は約300万人ですが、そのうち自然科学分野の人材が約30万人も含まれています。例えば、アメリカの航空宇宙局(NASA)の中にもベトナム人がいます。

楠見学長は地盤や地下水を専門に研究されているそうですが、ベトナム政府は自然科学の研究を重視しています。特に気候変動や水不足は世界の国々で問題になっており、ベトナムも例外ではありません。ベトナム政府はこの問題の解決のためには他の国と協力し、例えば日本などの先進国の協力を得て、気候変動や水不足を克服する対策を取ろうとしています。

楠見 私が2002年にベトナムへ行ったとき、ハノイでベトナム国家自然科学センターの方々と私たちのグループの間でシンポジウムを開きました。私が地盤や地下水を専門にしているということで、ハノイ市建設局の方から地盤沈下について意見を求められ、現場も見に行きました。ハノイもそうですが、上海、台北、バンコク、また、ヨーロッパではアテネなど、上水道の水源を地下水に頼っている都市では、少なからず地盤沈下の問題が起きています。

◆学術フォーラム「ベトナム・フエ研究最前線」開催

楠見 総領事として日本に赴任される前は、どこの国でお仕事をされてきたのですか。また関西や大阪の印象はいかがですか。

レー 私は東南アジア・南アジア・太平洋地域を担当する局(第2アジア局)に所属し、カンボジア、ラオス、インドネシアなどで外交官の任に当たりました。そして2007年9月に総領事として大阪に着任しました。

私たちベトナム人は、日本人が第二次世界大戦後の荒廃した国を立て直し、若者たちが頑張って学び働いて豊かな社会を築いてきたことを高く評価しています。

日本の中でも関西は、大阪(難波宮)、奈良、京都という古い都のあった地域です。日本には世界遺産のうちの文化遺産が11件ありますが、関西地域だけで5件を数えます。また、能や文

楽、歌舞伎なども、とても貴重な文化財だと思います。私は大阪に来て、科学テクノロジーの発展と同時に、日本の古来の伝統文化や歴史が受け伝えられてきていると感じました。

楠見 日本とベトナムの間にも、古くから交流の歴史があります。7月10日、11日の両日、関西大学で「ベトナム・フエ研究最前線」と題する学術フォーラムが開かれました。これは文部科学省グローバルCOEプログラム「関西大学文化交渉学教育研究拠点」のプロジェクトの一環で、内外の多くの研究者がフエ都城周辺集落や文書群の調査研究の成果を発表しました。

関西大学文化交渉学教育研究拠点では、2008年から若手研究者が中心となってフエでのフィールドワークを実施しています。昨年はフエ科学大学歴史学部で、「フエの文化と歴史」をテーマとする学術シンポジウムも開催しました。

レー それは大いに期待される研究プロジェクトですね。歴史を知ることは、異文化の理解と文化的な交流を深めることにつながります。昔のベトナムと日本、なかでもフエと日本との関係の歴史をさかのぼれば、忘れることのできない人物がいます。フエ出身の僧、仏哲です。インドで仏教を学んでから唐に入り、736(天平8)年に日本へ渡り、奈良の大安寺に住んで、「菩薩」[抜頭]といった舞や「林邑八楽」といわれる音楽を伝えました。当時、ベトナムは林邑国と呼ばれていて、舞の名人も日本に連れていったのです。東大寺大仏眼供養会の際には、舞と雅楽を伝授しました。

その後16世紀になると、ベトナムでは王様もいましたが、実際に権力を握っていたのは將軍です。フエを本拠地に阮氏政權が現在のベトナムの中南部を支配していました。將軍政權ということでは、日本の徳川幕府と同じですね。17世紀初めには数多くの日本人商人たちがフエやホイアンなどのベトナムの都市に出向き、貿易や商業活動を行っていました。また、そこに住んだ人々たちによって日本町が形成されました。ホイアンには約80世帯、1000人ぐらいの日本人が住んでいたといわれ、長さ約350メートルの通りの両側に日本風の建物が建ち並んでいました。日本人橋と呼ばれる来遠橋があり、建物の一部は今も残っています。



■対談



レー ドック リュウ (LE DUC LUU)  
1955年ベトナム国ハノイ市生まれ。71～76年ベトナム軍兵士。76年ハノイ外交大学入学、81年卒業。88～90年ラオス国家大学ラオス語専攻留学生。その他、シンガポール、アメリカ・ハワイなどで海外短期研修に参加。81年から外務省東南アジア・南アジア・太平洋局(第2アジア局)職員。83～87年在カンボジアベトナム大使館アタッセ、後に三等書記官。92～95年在ラオスベトナム大使館二等書記官。96～2000年在インドネシアベトナム大使館一等書記官。外務省第2アジア局東南アジア課長、外務省副局長兼労働組合委員長などを歴任。07年9月から外務省局長・在大使館ベトナム社会主義共和国総領事。

**楠見** 私は2002年にベトナムを訪れたとき、ホイアンにも足を延ばして日本人橋を渡りました。それにしても、総領事は歴史にお詳しいですね。

**レー** 機会があれば日本の大学で若い人たちに対して、両国の関係について詳しく説明させていただきたいですね。

**楠見** それはぜひお願いいたします。

◆「自分の国だけを考えず、国際的な人に」

**楠見** 総領事がおっしゃったように、関西・大阪は日本の歴史や伝統を伝えるとともにアジアとの結びつきが強い地域です。関西大学はそういう所にある大学です。私は昨年の10月に学長に就任してから「ハブ大学構想」を提唱しており、首都圏と並んでたくさん大学の集まっている関西圏の大学として、アジア太平洋地域を重要視しつつ国際化を図り、世界に向けて発信する使命があると考えています。特にアジア地域の大学との国際交流をもっと盛んにして、アジアの留学生を

グローバル化が進むなか、  
青年たちは自分の国のことだけを  
考えてはいけなと思います。  
国家的な人ではなくて、  
国際的な人になってほしい。

多数受け入れようとしています。もちろんベトナムの若い人もどんどん関西大学に来ていただきたいし、関西大学の学生もアジアの国々に出ていってほしいと思っています。

ただ残念なことに、近ごろ日本の若者は海外に目を向けなくなってきているのです。東南アジアで日本町をつくったころ、あるいは明治維新後に欧米の進んだ科学技術や社会制度を学んだころの日本人は、進取の気性に富んでいたと思います。関西大学では学生が積極的に海外に目を向けるようになればと、さまざまな取り組みをしているところです。語学力はもちろん、特に異文化の人とのコミュニケーション能力をしっかり身につけてもらう取り組みを進めています。総領事はいろいろな国で仕事をしてこられました、若い人たちにはどのようなことを望まれますか。

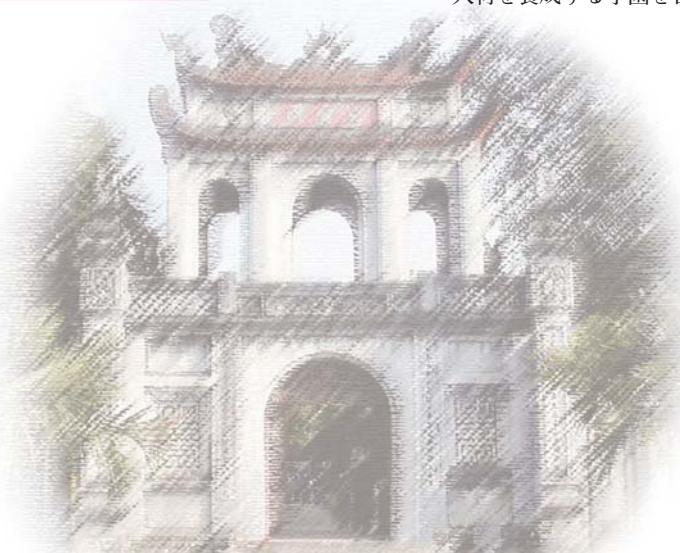
**レー** グローバル化が進むなか、青年たちは自分の国のことだけを考えてはいけなと思います。国家的な人ではなくて、国際的な人になってほしい。なぜかという、自分の国の問題だけではなく、国際的な問題、世界の問題を解決しなければならないからです。例えば、気候変動に対処しようとするれば、一つの国では、また一人では何もできないでしょう。外国との協力が必要ですし、他の人の協力を得て一緒に解決しなければなりません。とりわけ世界の重要な課題を解決するためには、若い研究者や専門家の貢献が望まれます。

ベトナムと日本の両国間で交流事業が行われていますが、日本政府が提案している民間レベル、草の根レベルの交流は高く評価すべきものです。今後5年間でベトナムの青年約2000人を日本に招いて交流させる計画です。また、ベトナム政府の計画では、2020年までの10年間で約1000人程度、博士課程留学生を日本に派遣することを想定しています。さらに、未来に向けて人材育成や高等教育の進展のために、各大学や研究機関との交流を促進しています。日本で定年退職を迎えた大学の教授や専門家をベトナムに招き、大学や研究機関で研究活動を続けてもらう計画もあります。

◆ハノイ・文廟の石碑が語る人材育成の重要性

**楠見** ベトナムの若い人たちは、非常に勉強意欲が高いで

1070年に建設された文廟。  
境内にはベトナム最古の大学が  
1076年に開設された ▶



関西大学では学生が積極的に  
海外に目を向けるようになればと、  
語学力はもちろん、特に異文化の人との  
コミュニケーション能力をしっかり  
身につけてもらう取り組みを進めています。

すね。タイのバンコクにあるアジア工科大学院(AIT=Asian Institute of Technology)で毎年、日本の土木学会とタイ王立工学協会との共催で地盤工学に関するシンポジウムを開いていますが、AITの各学科すべて、トップの成績を取っているのはベトナムの学生だと聞きました。ベトナムの大学生は、英語を不自由なく話せるほかに、第二外国語として日本語を学んでいる人もかなりいるそうですね。

**レー** そのとおりです。ベトナムでは今、日本語は人気がある言語です。ベトナムの若者が学習する外国語は、まず英語、次いでフランス語、ロシア語、中国語、日本語です。日本語教育は、大学だけでなく高等学校でも行われています。ハノイ市内には、日本語を教えている高等学校があります。関西大学と学術交流協定を結んでいる貿易大学は、ベトナムでは日本語教育で知られています。

ベトナムは今年、ハノイ遷都1000年記念の年に当たります。ハノイには1070年に建てられた文廟があります。孔子を祭るために建立された廟ですが、1076年にはその境内にベトナムで最初の大学が開設されました。文廟の中には、15世紀以降、約300年間にわたる科挙(官吏登用試験)に合格した人の氏名が刻まれた石碑が並んでいます。石碑の意味するところは、「人材は国の元気であり、人材が強くなれば国も強くなり発展していく。人材が弱くなり、元気がなくなれば、国も弱くなっていく」ということです。つまり、大学は国の人材育成のために重要な役割を担っているのです。

◆国際社会に貢献するためにも「考動力」を

**楠見** 関西大学は今年で創立124年目を迎えました。現在、約3万人の学生が学び、研究しています。卒業した人は約40万人です。その人たちが日本国内はもとより、世界で活躍しています。

本学には学是といわれる教育理念があります。それは「学の実化」、つまり「学理と実際との調和」です。学問をしながら実際に社会に役立つことも考えて、それを教育に生かしていくことが大事です。また本学の中長期目標では、「考動力」あふれる人材を養成する学園を目指しています。すなわち自分の頭でよく考えて、考えたことを実行に移す、自律的かつ積極的に



楠見 晴重(くすみ はるしげ)  
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業、81年同大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年理系出身者初の関西大学学長に就任。学校法人関西大学理事、文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、社団法人日本私立大学連盟常務理事、土木学会フェロー会員、岩の力学連合会副理事長ほか。共編著書に「地圏環境情報学 地下を診る最先端技術」など。

行動する力をつけることです。関大生はそういう「考動力」を身につけて、日本国内はもとより世界のさまざまな問題の解決に向けてどんどんチャレンジしてほしいのです。最後に、総領事から若い人たちにメッセージをお願いします。

**レー** どの国でも青年たちの役割はとても重要であり、未来の国づくりの源だと思います。学長が今おっしゃった、関西大学が目指している「考動力」という標語は素晴らしいですね。私が日本の青年や学生に送りたいメッセージも、これと同じです。自分の頭で考え、自分の力で行動してください。そして、日本の国のためだけではなく、他の国のため、国際社会のためにも貢献してほしいと思います。

**楠見** 関西大学はベトナムの3大学と学術交流協定を結んでいますが、これからさらにベトナムの若い人たちをどんどん受け入れたいと思っています。総領事にぜひご協力をお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。